

多摩府中地域での OASCIS を活用した抗菌薬適正使用に関する  
地域連携の樹立とモデル化

研究分担者 氏名

堀越 裕歩 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

研究協力者 氏名

大坪 勇人 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

磯部 裕介 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

研究要旨

昨今の薬剤耐性菌の蔓延対策として、地域における抗菌薬適正使用の推進が求められている。本分担研究は、多摩府中地域における「診療所における抗菌薬適正使用支援システム：OASCIS」を用いた抗菌薬適正使用に関する地域連携を行うこと、及びその地域連携をモデル化して全国に普及することである。OASCIS による地域連携を呼び掛け、2023年度は8診療所が加入し、定期的な地域連携カンファレンスを開始した。OASCIS は参加診療所の抗菌薬処方動向を簡便に確認できるシステムだった。今後、更なる診療所加入とモデル化を行っていききたい。

A. 研究目的

地域毎に感染症の流行状況は異なっているため、地域毎の抗菌薬適正使用が求められている。抗菌薬適正使用の推進のために、地域での抗菌薬の処方動向を把握する必要がある。AMR 臨床リファレンスセンターが主体となった診療所版 J-SIPHE「OASCIS (Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics：診療所における抗菌薬適正使用支援システム)」は、登録している診療所の処方情報を簡便に収集できるため、地域の抗菌薬処方動向の把握への活用が期待されている。我々の目的は、一つは多摩府中地域における OASCIS を用いた抗菌薬に関する地域連携を行うこと、二つ目に OASCIS を活用した地域連携を一般化及び

モデル化し、全国に普及することである。

B. 研究方法

府中多摩地域における診療所に OASCIS 登録と、OASCIS 内の当院のグループへの参加を促した。参加診療所が増えたところで、地域連携カンファレンスの定期開催を開始した。

C. 研究結果

2023年3月から5月にかけて、府中市医師会と共同で活動していくことが決定した。6月に、府中市医師会例会で OASCIS 及びそれを活用した地域連携の宣伝を行い、1診療所が OASCIS 内当院グループに加入した。11月に、府中市医師会共催で AMR に関する

る講演会(図1)を行い、1診療所が加入した。12月から府中市医師会の診療所への個別訪問を開始し、2診療所が加入した。2024年1月に、府中市医師会報への宣伝の寄稿(図2)を行った。2月に、第30回多摩小児感染・免疫研究会終了後、府中市のOASCISの取り組みに関する口演(図3)を行った。同月内で、既存の病院間連携カンファレンスに合併する形で、第1回地域連携カンファレンスを開始した。

#### D. 考察

2023年度では、計8診療所がOASCIS内当院グループに加入し、2024年2月から地域連携カンファレンスを開催することができた。

OASCISのWebページ開設以来、我々は多摩府中地域で精力的に広告活動を行い、OASCISを用いて当院との地域連携を呼び掛け、2診療所の加入があった。複数回の方法や対象を変えた広範な呼び掛けにも関わらず加入診療所は限定的であった。その理由として、聴衆が抗菌薬適正使用、あるいはその加算に関して意欲的ではないか、関心が特になくことが考えられる。加算点数が低いために診療所が意欲的にならない可能性も考えられる。反対に、加入診療所については元々抗菌薬適正使用に興味があり、呼び掛けによりきっかけを提供できたと考えられる。2023年度の診療報酬改定により抗菌薬適正使用体制加算が新設され、病院と診療所における地域連携を行うメリットが増えた。

府中市医師会員の協力を依頼し、個別に2診療所の訪問を行い、そのいずれもの加入があった。訪問により、登録など技術的な面の直接のサポートを行うことができた。今までの医師会員同士の信頼関係、当院との診療協力関係も含めての加入と考えられ

る。行える診療所数に限りはあるが、直接の訪問は加入数を増やすための一つの有効な方法と考えられる。

OASCISを用いた地域連携カンファレンスを開催した。参加診療所グループ全体の抗菌薬処方データをOASCISから簡便に取得できたため、事前のカンファレンス準備におけるデータ取得時間は数十分だった。

課題として、OASCISの初期登録が難しいことがあげられる。レセプトデータをUKEファイル化する必要がある、メーカー各社に問い合わせる必要がある。普及に伴いメーカー各社の柔軟な対応が望まれる。

今後、抗菌薬適正使用体制加算を望む施設からの依頼が期待できるため、引き続き当院との地域連携を呼び掛けていきたい。また現在の診療所との地域連携を強化し、加算条件の達成を含めた地域での抗菌薬適正使用を普及していきたい。OASCISを活用した地域連携を一般化及びモデル化に関して、2023年度は進捗がなかった。2025年度以降で、一般化及びモデル化を実現し、全国への普及も開始したい。

#### E. 結論

府中多摩地区の診療所と、OASCISを用いた地域連携カンファレンスを開始した。OASCISは簡便に参加診療所のデータ収集が行えるツールだった。2024年度以降、OASCISを用いた地域連携の普及、及びそのモデル化と普及を行っていきたい。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

なし

**東京都立小児総合医療センター・府中市医師会共催**  
**【感染症WEB講演会】**

**府中から世界を救っていく**  
**～コロナよりヤバイ**耐性菌**のはなし～**

抗菌薬適正使用推進に向けて、小児感染症の第一人者から  
 抗菌薬と耐性菌についてご講演いただきます！

<講師> 浜松医科大学 小児科学講座教授  
**宮入 烈 先生**



当院と地域での抗菌薬適正使用への  
 取り組みのご紹介

東京都立小児総合医療センター感染症科  
**大坪 勇人 先生**



日時 **令和5年11月7日(火曜日)**  
**19時00分から20時00分まで**

対象 医療従事者の方なら、どなたでもご参加いただけます。

会場 **Web開催** (Zoomミーティング ※以下URL又はQRコードをクリック)

<https://us02web.zoom.us/j/83193888970>

ウェビナーID 831 9388 8970

【お問合せ先】 東京都立小児総合医療センター-医事課医療サービス担当 荻野  
 電話 042-300-5111 内線3118 sn\_iji\_ka@tmhp.jp

図1 感染症 Web 講演会チラシ

**耐性菌がもたらす脅威**

東京都立小児総合医療センター感染症科 大坪 勇人 先生

耐性菌とは、抗菌薬に耐性を持つ細菌や真菌を指します。これらは、感染を引き起こすだけでなく、治療が難しくなるという特徴があります。特に、小児科では、免疫機能が未熟な子どもたちが感染しやすいという点に注意が必要です。

府中市の耐性菌の現状

東京都立小児総合医療センターで実施している耐性菌監視プログラム「OASIS」によると、府中市の耐性菌の現状は、全国的な傾向と一致しています。特に、抗菌薬の使用量の増加に伴って、耐性菌の発生率も増加傾向にあります。

OASISとは？

OASISは、OASIS公式HPで申請されたデータに基づいて、毎月1回、府中市医師会から発行される「府中市医師会報」に掲載されます。また、OASIS公式HPでも、最新のデータを確認することができます。

耐性菌の脅威

耐性菌は、感染を引き起こすだけでなく、治療が難しくなるという特徴があります。特に、小児科では、免疫機能が未熟な子どもたちが感染しやすいという点に注意が必要です。

耐性菌の脅威

耐性菌は、感染を引き起こすだけでなく、治療が難しくなるという特徴があります。特に、小児科では、免疫機能が未熟な子どもたちが感染しやすいという点に注意が必要です。

OASISのダッシュボード参照



OASIS 連携までのフローチャート

**①施設登録**

OASIS公式HPで  
施設登録の申請

↓ 1~2週間

登録完了メール受信後  
都立小児グループ申請

**②データ登録準備**

レセプトチェック用UKEファイル(以下UKEファイル)  
出力方法を電子カルテメーカーに確認

準備いただいたUSBメモリーに  
「レセプト匿名化ツール」をダウンロード  
※公式HPからダウンロード可能

↓ 1~2週間

**②毎月のデータ登録(左図参照)**

1. レセプト室部PCからUKEファイルを読み出し
2. UKEファイルを匿名化
3. 匿名化したUKEファイルをOASISにアップロード

毎月のデータ登録時間(一例)

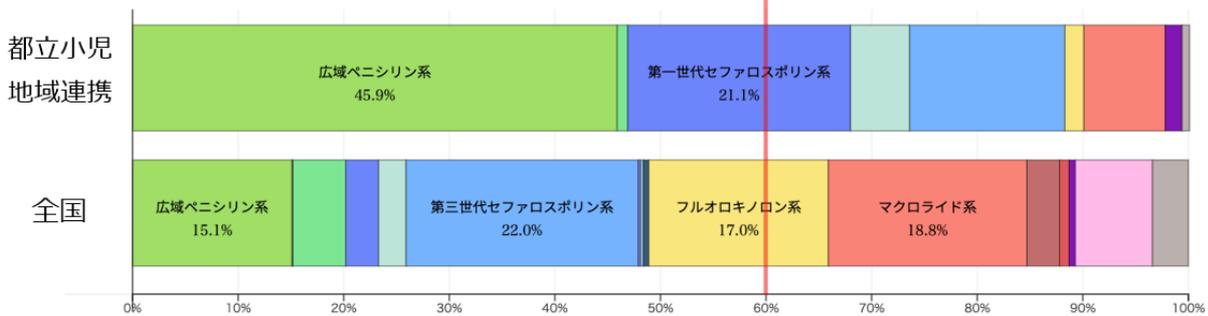
UKEファイル出力	匿名化	アップロード
15分	3分	3分

図2 府中医師会報への寄稿文

# 全ての処方箋の抗菌薬 種類毎の割合



2023年4月～2024年3月

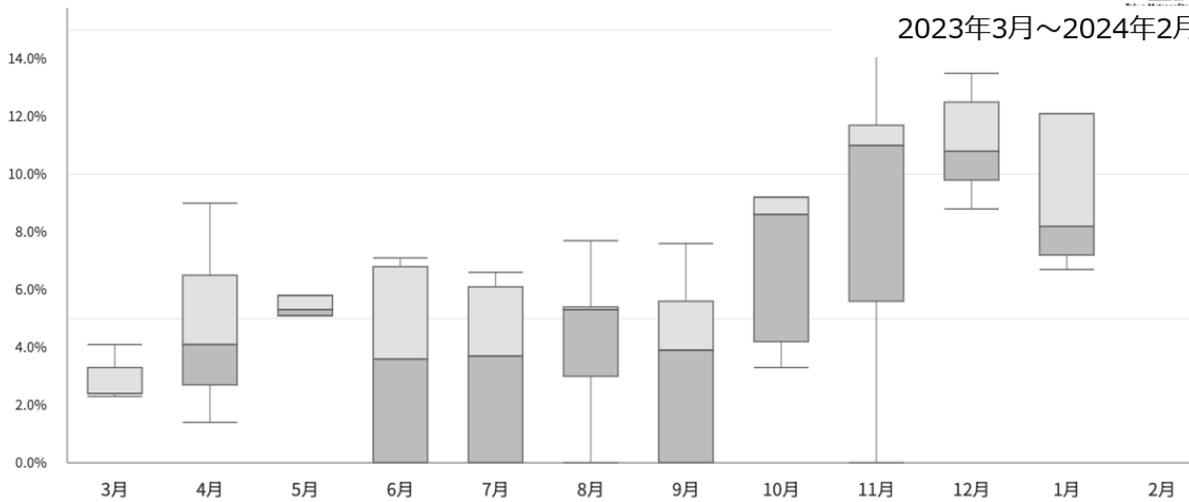


全国と比較して，狭域な抗菌薬が用いられている

# 当地域連携の全患者の抗菌薬処方率



2023年3月～2024年2月



中央値：2.4～11.0%，最大処方率4～15%程度

図3 OASCIS を用いた地域連携カンファレンスの資料抜粋